

羽田イノベーションシティにおけるスマートシティ実証実験への参画

損害保険ジャパン株式会社（代表取締役社長：西澤 敬二、以下「損保ジャパン」）は、羽田みらい開発株式会社（代表取締役社長：山口 皓章）が「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業（第一期事業）」において開発を進める「HANEDA INNOVATION CITY（羽田イノベーションシティ）」にて、株式会社マクニカ（代表取締役社長：原 一将、以下「マクニカ」）、PerceptIn Japan 合同会社（代表：Shaoshan Liu、以下「PerceptIn」）、BOLDLY 株式会社（代表取締役社長兼 CEO：佐治 友基）とともに国土交通省が支援する『スマートシティモデルプロジェクト※¹（令和2年度先行モデルプロジェクト）』参画し、自律走行低速電動カートによるスマートシティの実証実験を支援します。

1. 実証実験の概要

『スマートシティプロジェクト』の1つである「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業（第一期事業）」では、空港跡地のグリーンフィールドである街全体を対象に、BIM※²を活用したデータの統合・可視化・分析が可能な「空間情報データ連携基盤」を整備し、先端的技術の協調領域とすることで、実証的取組みに適したテストベッド※³を形成し、大田区の課題解決に資する取組みを展開することで、早期のサービス実装を目指しています。また、自律走行バスや自律走行低速電動カートなど、スマートモビリティを活用した実証実験を、早期のサービス実装を目指した取組みの一つとして実施しています。

本実証実験では8人乗りの低速電動車両に、PerceptInの独自技術（センサーフュージョン）によるコンピュータビジョンモジュール※⁴を搭載した自律走行低速電動カートを使用します。

自律走行低速電動カートを活用した実証実験を通して、歩車混在環境化における移動ストレスの低減や回遊性の向上について効果を検証します。また、統合管制システムによるモビリティの遠隔監視の実証を合わせて行います。

【実施期間】

2020年9月18日（金）～22日（火）、24日（木）～26日（土）、10月1日（木）～3日（土）、8日（木）～10日（土）

※各日 10～12時、13～17時を予定

2. 役割

損保ジャパンは本実証実験における自動運転車両向けの自動車保険と、走行エリアのリスクアセスメントの提供により、安全な実証実験の実現に向けた支援を行います。

また、各事業者の役割は以下のとおりです。

【各事業者とその役割】

事業者	役割
羽田みらい開発株式会社	全体総括
株式会社マクニカ	マップ作成、ODD設計、ソフトウェアサポート
PerceptIn Japan 合同会社	自律走行低速電動カートの提供
BOLDLY 株式会社	遠隔監視による運行管理
損害保険ジャパン株式会社	自動運転車両向け自動車保険、走行エリアのリスクアセスメントの提供

※1 『スマートシティモデルプロジェクト』

先進的技術をまちづくりに活かすスマートシティのモデルを早期に実現するため、国土交通省によりスマートシティ実証調査を支援するプロジェクト。

https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi07_hh_000159.html

※2 『BIM』

Building Information Modeling の略称。コンピューター上に現実と同じ3次元の建物モデルを再現し、建物づくりに活用する仕組みのこと。

※3 『テストベッド』

新しい技術の開発を推進するために使用される検証プラットフォームのこと。

※4 『コンピュータービジョンモジュール』

ステレオカメラとAIによって視覚を実現するモジュールのこと。